



山重っ子

校訓「やさしく かしこく たくましく」



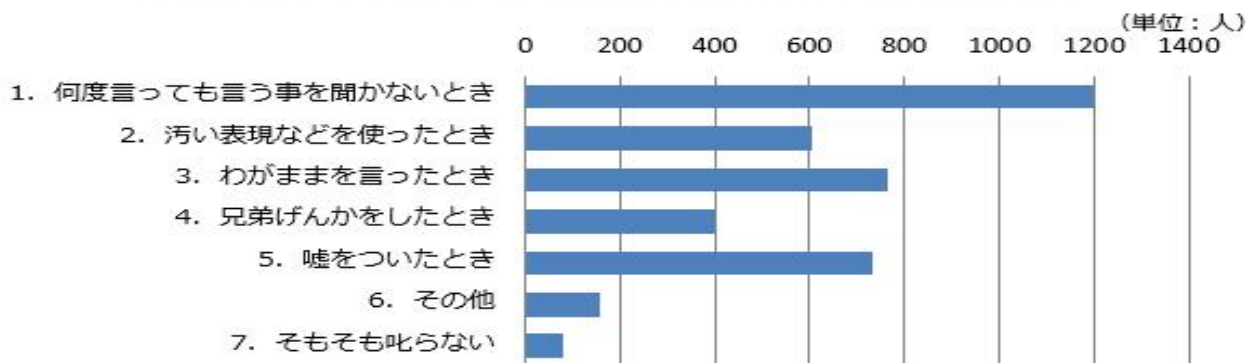
上手に叱る！

校長 川崎 正

叱ることは、大人にとっても子どもにとってもストレスがかかるものです。つい、感情的になってしまい、叱る目的を見失って、子どもに怒りをぶつけてしまうこともあります。その結果、「うるさいな」とスルーされたり、「なんでよ!？」と反抗的な態度を見せられたりすることもあると思います。できれば叱る場面を避けたいと思ってしまうこともあるでしょう。

今回は、子どもの失敗を成長の機会に変えるために、叱り方を工夫することについて触れたいと思います。下のグラフは、ベネッセ教育情報(2015.12.20)からです。

どんなシーンで叱る場合が多いですか？(複数回答可)



叱る理由は様々だと思いますが、まずは、自分の中で叱る理由を確認すること、そうすることで、叱る側の気持ちが整理され、落ち着いて話すことができるそうです。一番大切なのは、なぜ自分が叱られているのか、子ども自身が納得することです。『こういう理由であなたを叱るよ』と深呼吸して落ち着いて話をしたいものです。もちろん、子どもが行いを反省しているのであれば、叱る必要はありません。ただ、話を聞いてあげればよいのです。「なぜ叱られるのか」といった理由を理解し、誤りを改善することで、子どもの社会性も情緒面も大きく発達していきます。叱ることが振り返りのきっかけにもなることでしょう。

叱ることは、愛情を伝えること(難しいですが...)。学校では、多様な価値観をもった子どもたちが集まって、小さな社会を築き、日々学校生活を送っています。その中で人との関わりやルールを学び、社会の一員として成長していきます。子どもたちの幸せは、保護者や地域の方々、学校職員みんなの願いです。上手に叱ることは、子どもの成長を助ける重要な鍵なのかもしれません。

《じっくりご覧いただきました》 ~学校自由参観日~



11月1日(水)~7日(火)の地域が育む「かごしまの教育」県民週間中、保護者や地域の方にたくさんご来校いただきました。「心の教育の日」に合わせた

2日(木)の全学級道徳の授業では、上学年は真剣に自分の考えを出し合い、また下学年は張りきって意見を発表していました。子どもたちの学校での様子をじっくり見ていただき、ありがとうございました。